

令和6年度 農高・農大就農促進対策事業（農高就農促進対策助成）

事業主体名 鹿児島県立薩摩中央高等学校

1 目的

本校の令和6年度入学生は25名で、そのうち22名（88%）は第二種兼業農家・非農家であり、これまでの農業体験が少ないことが予想される。しかし、半数以上（52%）の生徒は農業に興味・関心があることを入学の動機にあげている。このような現状から、地域農業の実態を学ぶための視察研修や農家実習等は就農意欲の醸成とともに教育的効果が高いものとする。

各事業を継続して実施することで、生徒たちがより見聞を広め、農業に対する理解を深めるとともに就農意欲の向上に繋がることが期待される。

2 実施状況

(1) 農家実習

さつま町・薩摩川内市の7事業所および農家で生物生産科2年生を対象に農家実習を4日間行った。慣れない環境で初めて行う作業もあり、戸惑うこともあったようだが、実習を通して地域農業への理解が深まり、就農に対する意識が向上した。



農家実習（畜産農家）

(2) 先進地視察研修

12月19日に先進地視察研修を実施した。農業大学校およびJAさつま日置果樹選果場を視察した。農業大学校では、施設見学や学習内容を聞き、農業大学校について詳しく知ると同時に進学意識が向上した。JAさつま日置果樹選果場では、先進的な取組について学び、農業に関する知識を深めることができた。



先進地視察研修（農業大学校）

(3) 営農の門出を励ます会

2月14日に農業大学校・林業大学校および農業関連事業所へ就職する生徒を励ます会を実施した。それぞれ将来についての抱負を述べ、より一層志を強くする会となった。また、1・2年生は先輩方の抱負を聞き、農業への興味・関心を深めることができた。



営農の門出を励ます会

3 今後の課題、取組

非農家の生徒が大半を占める中、視察研修や体験活動を継続的に行うことで農業に興味・関心を持たせたい。また、先進農家での実習や研修を充実させ、一人でも多くの生徒に就農を促していきたい。